

病害虫発生予報

第5号(8月予報)

令和3年7月28日

岐阜県病害虫防除所

【予報の概要】

作物名	病害虫名	対象地域名	8月予報	
			発生時期	発生量
水稻	穂いもち	早期栽培	平年並	多
		普通期栽培	平年並	やや多
	紋枯病	栽培地域全域	平年並	やや少
	ニカメイガ	栽培地域全域	平年並	少
	セジロウンカ	栽培地域全域	早	多
	トビイロウンカ	栽培地域全域	早	多
	ツマグロヨコバイ	栽培地域全域	平年並	少
	斑点米カメムシ類	栽培地域全域	平年並	多
大豆	ハスモンヨトウ	栽培地域全域	-	平年並
かき	カキノヘタムシガ	栽培地域全域	やや早	やや多
	ハマキムシ類	岐阜・西濃地域	平年並	やや多
		中濃地域	平年並	少
なし	ナシヒメシンクイ	中濃地域	平年並	やや少
もも	ナシヒメシンクイ	飛騨地域	平年並	やや多
果樹共通	カメムシ類	栽培地域全域	-	少
茶	ハマキムシ類	岐阜・西濃、中濃地域	平年並	やや少
夏秋トマト	灰色かび病	中濃、東濃、飛騨地域	-	やや多
野菜一般	ハスモンヨトウ	栽培地域全域	-	やや少
	タバコガ類	栽培地域全域	-	やや少
	アザミウマ類	栽培地域全域	-	やや少
施設野菜	コナジラミ類	岐阜・西濃地域	-	多

※発生時期の-は連続発生

【防除にあたっての注意事項等】

薬剤防除にあたっては、「病害虫・雑草防除指導指針」を参照するとともに、最新の農薬登録情報を確認し、使用基準を遵守してください。

外部リンク：農薬登録情報提供システム（農林水産省）

<https://pesticide.maff.go.jp/>

【発生予報・根拠・注意事項等】

- I 普通作物
- 1 水稻

穂いもち	対象地域	発生時期 <初発生>	発生量
	早期栽培	平年並（8月第1～3半旬頃）	多
	普通期栽培	平年並（9月第1半旬頃）	やや多

- (1) 予報の根拠（発生量が多くなる要因を（+）、少くなる要因を（-）で表記）
- ア 出穂期は、平年並と予想される（±）。
 - イ 葉いもちの発生ほ場率は、やや高～高かった（+）。
 - ウ 葉いもちの上位葉における発病は、東濃地域の一部ほ場で確認された（+）。

エ 向こう1ヶ月(7/24~8/23)の気象予報によれば、気温は高く(－)、降水量は平年並~多い(±~+)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 散布剤による防除は、穂ばらみ期~穂揃い期に実施する。葉いもちが発生しているほ場や、本病に対する箱施薬などの予防剤を使用していないほ場では特に注意する。
- イ MBI-D(カルプロパミド、ジクロシメット、フェノキサニル等)剤に対する耐性菌が当県でも確認されているため、別系統の薬剤を使用する。また、QoI 剤に対する耐性菌が確認されているため、薬剤の選択に注意する。
- ウ 過剰な追肥は、発病を助長するので行わない。
※ 病虫害図鑑「水稻 いもち病について」もあわせて参考にしてください。

紋枯病	対象地域	発生時期 <最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並 (8月第1~3半旬頃)	やや少

(1) 予報の根拠

- ア 初発生は、まだ認めていない(－)。
- イ 水稻の生育は、岐阜・西濃地域で草丈が高く、その他の地域は平年並であった。
- ウ 発病ほ場率は、低かった(－)。
- エ 向こう1ヶ月(7/24~8/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並~多い(±~+)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 本病に対する箱施薬などの予防剤を使用していないほ場では、発生状況に注意する。
※ 病虫害図鑑「水稻 紋枯病について」もあわせて参考にしてください。

ニカメイガ	対象地域	発生時期 <第1世代成虫最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並 (8月第3半旬頃)	少

(1) 予報の根拠

- ア 越冬世代成虫の予察灯への誘殺最盛期は、まだ認めていない(－)。
- イ 第1世代幼虫による被害ほ場は、少なかった(－)。
- ウ 向こう1ヶ月(7/24~8/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並~多い(±~-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 前年に被害が発生した地域では注意する。

セジロウンカ	対象地域	発生時期 <成虫最盛期>	発生量
	栽培地域全域	早 (8月第1~4半旬頃)	多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯への初飛来は、岐阜・西濃地域で早く(+)、中濃地域でやや早(+)、飛騨地域で平年並であった(±)。
- イ 予察灯での誘殺数は、岐阜・西濃、中濃、飛騨地域で多かった(+)
- ウ ほ場での発生量は、岐阜・西濃地域で平年並(±)、中濃、東濃、飛騨地域で多かった(+)
- エ 向こう1ヶ月(7/24~8/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並~多い(±~-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 水田での発生状況を確認し、要防除水準(8月上旬に幼虫が5頭/株以上)を超える場合は防除を行う。
※ 病虫害図鑑「水稻 セジロウンカ・トビイロウンカについて」もあわせて参考にしてください。

トビイロウンカ	対象地域	発生時期 <幼虫・成虫最盛期>	発生量
	栽培地域全域	早 (8月第3~5半旬頃)	多

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯への初飛来は、早かった(+)
- イ 予察灯への誘殺数は、岐阜・西濃、中濃、東濃地域で多かった(+)

ウ 向こう1ヶ月(7/24~8/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並~多い(±~-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 水田での発生状況を確認し、要防除水準(早植栽培では8月上旬、普通植栽培では8月中下旬に平均2~3頭/株)を超える場合は直ちに防除を行う。

イ 発生状況等について、今後の情報に注意する。

※病害虫発生予察注意報第2号「水稻：トビイロウンカ」(令和3年7月8日)もあわせて参考にしてください。

ツマグロヨコバイ	対象地域	発生時期 <第3世代幼虫最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並(8月第2~3半旬頃)	少

(1) 予報の根拠

ア 予察灯における第2世代成虫の誘殺最盛期は、まだ認めていない。

イ 予察灯における誘殺数は、岐阜・西濃、中濃地域で少なく(-)、東濃地域で平年並であった(±)。

ウ 7月下旬のほ場での発生量は、岐阜・西濃、東濃、飛騨地域で少なく(-)、中濃地域の一部のほ場で多かった(+)

エ 向こう1ヶ月(7/24~8/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並~多い(±~-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 地域による発生量の差が大きいため、発生状況に注意する。

※ 病害虫図鑑「水稻 ツマグロヨコバイについて」もあわせて参考にしてください。

斑点米カメムシ類	対象地域	発生時期 <最盛期>	発生量
	栽培地域全域	平年並	多

(1) 予報の根拠

ア 出穂期は、平年並と予想される(±)。

イ 予察灯の誘殺数は、アカスジカスミカメが東濃、飛騨地域で多く(+)、アカヒゲホソミドリカスミカメが東濃地域で多かった(+)

ウ 本田での発生量は、カスミカメムシ類が岐阜・西濃、中濃、東濃地域で少なく(-)、飛騨地域で多かった(+)。岐阜・西濃、中濃、東濃地域では、ほ場によってはイネカメムシ、ホソハリカメムシ等の大型カメムシの侵入が確認された(+)

エ 向こう1ヶ月(7/24~8/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並~多い(±~-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 出穂10日前までに畦畔等の雑草地における除草を徹底し、特にイネ科雑草は、出穂させないように管理する。

イ 散布剤による防除は、穂揃期およびその7~10日後の2回を基本とする。

ウ 粒剤による防除は、出穂期の7~10日後が基本となるが、斑点米カメムシ類の発生が多い場合等には出穂~穂揃期に実施する。

エ イネカメムシは出穂直後から吸汁し、被害が激しい場合は不稔を引き起こすため、前年の被害ほ場や既に発生が認められるほ場では、出穂期に効果が得られるように防除を実施する。

※ 病害虫図鑑「水稻 斑点米カメムシ類について」もあわせて参考にしてください。

2 大豆

ハスモンヨトウ	対象地域	発生量
	栽培地域全域	平年並

(1) 予報の根拠

ア フェロモントラップにおける誘殺数は、やや少なかった(-)。

イ 向こう1ヶ月(7/24~8/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並~多い(±~-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除に重点を置く。

イ フェロモントラップを設置してモニタリングしているほ場では、今後の誘殺数に十分注意する。

※ 病害虫図鑑「大豆 ハスモンヨトウについて」もあわせて参考にしてください。

II 果樹等作物

1 かき

カキノヘタムシガ	対象地域	発生時期<第2世代幼虫最盛期>	発生量
	栽培地域全域	やや早(7月第6半旬頃)	やや多

(1) 予報の根拠

- ア 第1世代成虫の発生最盛期は、やや早かった。
- イ 第1世代成虫最盛期における発生量は、少なかった(－)。
- ウ 第1世代幼虫による被害果率は、高かった(+)。
- エ 向こう1ヶ月(7/24～8/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並～多い(±～-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 例年発生が多いほ場では、長期残効が期待できる薬剤を選択するか、1回目の防除7～10日後に追加防除を実施する。
- ※病害虫図鑑「かき カキノヘタムシガ」も参考にしてください。

ハマキムシ類	対象地域	発生時期<第3世代幼虫最盛期>	発生量
	岐阜・西濃地域	平年並(8月第3～5半旬頃)	やや多
	中濃地域		少

(1) 予報の根拠

- ア 予察灯における第1世代成虫の誘殺最盛期は、認められなかった。
- イ 予察灯における第1世代成虫の誘殺数は、岐阜・西濃地域のチャノコカクモンハマキで平年並(±)、岐阜・西濃地域のチャハマキ、中濃地域のチャノコカクモンハマキ及びチャハマキで少なかった(－)。
- ウ フェロモントラップにおける第1世代成虫の誘殺数は、岐阜・西濃地域のチャノコカクモンハマキで平年並(±)、中濃地域のチャハマキで少なかった(－)。
- エ 向こう1ヶ月(7/24～8/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並～多い(±～-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア ヘタ部やつづり合わせた葉内などに生息するため、薬剤防除はていねいに行う。
- ※ 病害虫図鑑「かき ハマキムシ類について」もあわせて参考にしてください。

2 なし

ナシヒメシンクイ	対象地域	発生時期 <第3世代幼虫最盛期>	発生量
	中濃地域	平年並(8月第3半旬頃)	やや少

(1) 予報の根拠

- ア 中濃地域のフェロモントラップでの第2世代成虫誘殺最盛期は、認めていない。
- イ 中濃地域のフェロモントラップでの誘殺数は、やや少なかった(－)。
- ウ 向こう1ヶ月(7/24～8/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並～多い(±～-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア 幼虫発生初期に防除を実施する。
- ※ 病害虫図鑑「なし ナシヒメシンクイについて」もあわせて参考にしてください。

3 もも

ナシヒメシンクイ	対象地域	発生時期 <第3世代幼虫最盛期>	発生量
	東濃、飛騨地域	平年並(8月第3半旬頃)	やや多

(1) 予報の根拠

- ア フェロモントラップにおける誘殺数は多かった(+)。
- イ 芯折れ被害は東濃地域で認められたが(+)、飛騨地域では認められなかった(－)。
- ウ 向こう1ヶ月(7/24～8/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並～多い(±～-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 交信攪乱剤が設置されていないほ場では、発生に注意する。

4 果樹共通

カメムシ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	少

(1) 予報の根拠

ア 予察灯における成虫誘殺数は、少なかった(－)。

イ フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数は、少なかった(－)。

ウ 向こう1ヶ月(7/24～8/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並～多い(±～-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 気温、湿度が高く風の弱い夜間に飛来が多くなるので注意する。

※ 病害虫図鑑「果樹カメムシ類について」もあわせて参考にしてください。

5 茶

ハマキムシ類	対象地域	発生時期<第3世代幼虫発生最盛期>	発生量
	岐阜・西濃、 中濃地域	平年並(8月第5半旬頃)	やや少

(1) 予報の根拠

ア フェロモントラップにおけるチャハマキ、チャノコカクモンハマキの第1世代成虫の誘殺最盛期は、岐阜・西濃地域でやや遅～遅く(－)、中濃地域のチャノコカクモンハマキでやや早かった(+)

イ フェロモントラップにおけるチャハマキ第1世代成虫の誘殺数は、やや少なかった(－)。

ウ フェロモントラップにおけるチャノコカクモンハマキ第1世代成虫の誘殺数は、少なかった(－)。

エ 巻葉被害は、少なかった(－)。

オ 向こう1ヶ月(7/24～8/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並～多い(±～-)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 幼虫が葉をつづりあわせると、葉液がかかりにくくなるため、ふ化期～若齢幼虫期に防除を実施する。

※ 病害虫図鑑「茶 ハマキムシ類について」もあわせて参考にしてください。

III 野菜

1 夏秋トマト

灰色かび病	対象地域	発生量
	中濃、東濃、飛騨地域	やや多

(1) 予報の根拠

ア 7月下旬調査時の発病株率は、中濃地域で平年並(±)、東濃、飛騨地域で高かった(+)

イ 向こう1ヶ月(7/24～8/23)の気象予報によれば、気温は高く(－)、降水量は平年並～多い(±～+)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤耐性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

※ 病害虫図鑑「トマト 灰色かび病について」もあわせて参考にしてください。

2 野菜一般

ハスモンヨトウ	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや少

(1) 予報の根拠

ア フェロモントラップの誘殺数は、岐阜・西濃、中濃地域でやや少～少なく(－)、東濃地域で多かった(+)

イ さといもでの被害は少なかった(－)。

ウ 向こう1ヶ月(7/24～8/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並～多い(±

～)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 今後の発生状況等について、「病虫害発生予報(9月予報)」等に注意する。

※ 病虫害図鑑「野菜類 ハスモンヨトウについて」もあわせて参考にしてください。

タバコガ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや少

(1) 予報の根拠

ア フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺数は、中濃地域で少なく(－)、東濃、飛騨地域でやや少なかった(－)。タバコガの誘殺数は、少なかった(－)。

イ タバコガ類の被害果率は低かった(－)。

ウ 向こう1ヶ月(7/24～8/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並～多い(±～)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 早期発見に努め、若齢幼虫期の防除に重点を置く。

※ 病虫害図鑑「ナス タバコガ類について」もあわせて参考にしてください。

アザミウマ類	対象地域	発生量
	栽培地域全域	やや少

(1) 予報の根拠

ア ナスほ場での発生は、岐阜・西濃地域で多く(+)、中濃、東濃地域で少なかった(－)。

イ 向こう1ヶ月(7/24～8/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並～多い(±～)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統の薬剤の連用を避ける。

※ 病虫害図鑑「キュウリ ミナミキイロアザミウマについて」もあわせて参考にしてください。

3 施設野菜

コナジラミ類	対象地域	発生量
	岐阜・西濃地域	多

(1) 予報の根拠

ア 岐阜・西濃地域のトマト施設周辺に設置した黄色粘着板への誘殺数は多かった(+)。

イ 向こう1ヶ月(7/24～8/23)の気象予報によれば、気温は高く(+)、降水量は平年並～多い(±～)と予想される。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 発生はほ場ごとに差があるため、ほ場内をよく観察し、発生が認められる場合は薬剤防除を実施する。

※ 病虫害図鑑「トマト コナジラミ類について」もあわせて参考にしてください。

[参考資料 1]

【東海地方 1 か月気象予報】 (抜粋) - 名古屋地方気象台 令和 3 年 7 月 22 日発表 -
 《予想される向こう 1 カ月の天候 (7 月 24 日から 8 月 23 日)》

- ・ 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 平均気温は、高い確率 50% です。降水量は、平年並または多い確率ともに 40% です。
- ・ 週別の気温は、1 週目は、平年並または高い確率ともに 40% です。2 週目は、高い確率 50% です。3～4 週目は、平年並または高い確率ともに 40% です。

[向こう 1 ヶ月の気温、降水量、日照時間の各等級の確率 (%)]

	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
平均気温	10	40	50
降水量	20	40	40
日照時間	40	30	30

[気温経過の各階級の確率 (%)]

	低い	平年並	高い
(1 週目) 7/24～7/30	20	40	40
(2 週目) 7/31～8/6	10	40	50
(3～4 週目) 8/7～20	20	40	40

[参考資料 2]

【7 月の調査における病害虫発生量】

作物名	病害虫名	調査地点での発生量：7 月			
		岐阜・西濃地域	中濃地域	東濃地域	飛騨地域
水稲	葉いもち	多	やや多	多	多
	紋枯病	少	少	少	少
	ニカメイガ	少	少	少	少
	ヒメトビウンカ	少	やや少	-	-
	縞葉枯病	少	少	-	-
	セジロウンカ	多	多	多	多
	トビイロウンカ	多	多	多	少
	ツマグロヨコバイ	少	多	平年並	少
	斑点米カメムシ類	やや多	やや多	多	多
大豆	ハスモンヨトウ	やや少	-	-	-
かき	カキノヘタムシガ	やや多	-	-	-
	ハマキムシ類	平年並	少	-	-
なし	ナシヒメシンクイ	-	やや少	-	-
	黒星病	多	多	-	-
もも	ナシヒメシンクイ	-	-	やや少	多
果樹共通	カメムシ類	少	少	少	少
茶	ハマキムシ類	やや少	やや少	-	-
	チャノホソガ	多	少	-	-
夏秋トマト	灰色かび病	-	平年並	多	多
野菜一般	ハスモンヨトウ	少	やや少	多	-
	タバコガ類	-	少	やや少	やや少
	アザミウマ類	多	少	少	少
施設野菜	コナジラミ類	多	-	-	-

※調査地点はほ場、予察灯、フェロモントラップ等

[参考資料 3]

《用語の基準と使用法》

- | | | |
|---|-----|---|
| 1 | 半旬 | 月の1～5日を第1半旬、6～10日を第2半旬と表す。 |
| 2 | 時期 | 平年並 平年値を中心として前後2日以内。
やや早い 平年値より3～5日早い。
やや遅い 平年値より3～5日遅い。
早い 平年値より6日以上早い。
遅い 平年値より6日以上遅い。 |
| 3 | 発生量 | 平年並 平年値を中心として、その値が±20%以内。
やや多い 平年値より、その値が21～40%多い。
やや少ない 平年値より、その値が21～40%少ない。
多い 平年値より、その値が41%以上多い。
少ない 平年値より、その値が41%以上少ない。 |
| 4 | 平年値 | 同一調査地点における過去10年間の値の平均値。 |

病害虫防除所ホームページに、病害虫発生予察調査データを公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2979.html>

主要な病害虫の防除上の注意事項等については、「病害虫図鑑」をご活用ください。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/12933.html>

6月～8月は、令和3年度農薬危害防止運動の実施期間です。農薬及びその取扱いに関する正しい知識を広く普及するとともに、農薬の適正販売、安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を徹底し、農薬による事故等を未然に防止しましょう。